

巻頭言集

目次へ

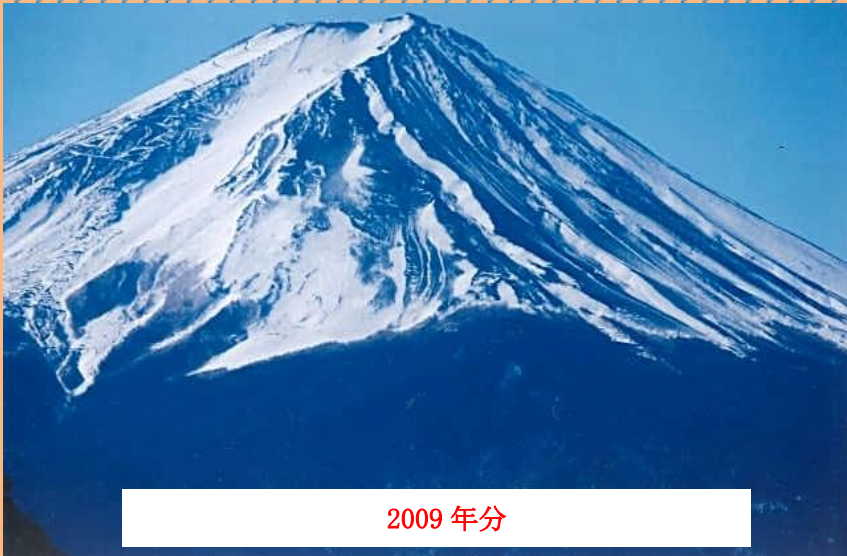
岳友

豊中労山

No.404

(平成21年)2009

12月号



2009 年分

大阪府勤労者山岳連盟

豊中勤労者山岳会

<http://homepage2.nifty.com/toyonakawac/>

目 次

誰が私を	B班 平林博幸	BMP0912
山との出会い	A班 吉田穂積	BMP0910
趣味と私	C班 村田将章	BMP0909
六十過ぎからの山歩き	A班 森野ますみ	BMP0908
私の一名山	B班 酒井桂子	BMP0907
豊中労山との出会い	A班 井畑秀敏	BMP0906
「安全に山を楽しもう」	会長 中嶋晴夫	BMP0905
Let's go jogging.	C班 佐野良一	BMP0904
今が青春	A班 碓 強	BMP0900
エヴェレスト街道と人々	A班 久保田明	BMP0800

誰が私を

(B班)平林 博幸

私は怠けものである。職業は、普通のサラリーマンであるが、子供も大きくなった今では、一緒に遊んでくれない。だから土日は、家でゴロゴロ。怠けものにとっては最高の休日だ。ネジは緩みきり、テレビの前に寝転がり、起きているのか、寝ているのか、映像なのか、夢なのか。でも、三度の食事とおやつはきっちり頂き、あつという間に、土日が過ぎていく。贅肉の増加を伴って。

こんな人間には、なんの魅力もないし、進歩もない。いいことは、お金を使わないことぐらいだ。ただ、唯一、家から出るのは、月に1回程度のゴルフだ。ゴルフといっても乗用カートに乗って移動する今のゴルフは、スポーツではない。また、怠けものだからゴルフの練習もしない。まだ、今よりは活動的であった若いころに練習した蓄えで細々と食いつないでいた。

こんな精神的にも、肉体的にも緩みきった私を、見るに見かねて山に引っ張りだしたのが、超元気おばさん？ 一見おねえさん？ 年齢不詳？のB班小前さんである。彼女は、会社の同僚であり、ゴルフ友達でもあった。あのパワフル姉さんが、私を箕面に連れ出した。今も忘れない、箕面から五月山へ抜けるハイキングコースを歩かされたが、10mほど上がっただけで、ハアハアゼイゼイ、殺されるかと思った。しかし、なんとか池田にたどり着き、うどん屋で飲んだビールは最高であった！ 私の人生のなかであのビールよりもうまいビールはいまだ現れていない。

山は、こんな幸せを与えてくれるのだ。こんな充実感をもたらしてくれるのだ。これが私の山人生のはじまりである。といってもまだ5年目の新米であるが。その後、六甲では物足りなくなり、北アルプスや南アルプスへ。今年は槍ヶ岳へも登頂。4年前の姿から誰が想像できただろう。

こんな充実した人生に変えてくれた小前さんには非常に感謝している。だから、彼女には頭が上がらない、と言うことはない。なぜならば、彼女の足りない点を私が補っているからだ。この巻頭言という場所をかりて暴露するが、小前珠江という名の岳友の文章は、私が監修している。彼女のキャラクターと繊細な文章のアンバランスに違和感を感じておられた方は、これでスッキリしたと思う。

こうやって、山により生まれ変わった私は、土日はほとんど家にいないという正反対の生活。たまには、家でゴロゴロしてみたいものだ。

山との出会い

(A班) 吉田 穂積

手許に『アルパインガイド1 近畿の山』という、山と溪谷社から昭和40年に出た本があります。その68頁「西山谷」には41. 3. 26の日付が鉛筆で書き込まれています。大学入試を終えた高校3年の春休み、同級生と共に登った記録です。

しかし、山らしい山へのかかわりは、就職してから始まったと言えましょう。職場の同僚たちと1泊2日で三畝山へ行ったり、修学旅行の付添で磐梯山や白馬乗鞍に行った1970年代以降です。その後、転勤した高校にワンダーフォーゲル部があり、1981年から10年間顧問の一員として毎夏北アルプスへ連れて行って貰いました。といっても知識・技術を持たぬ身。同僚や生徒たちに教わる一方でした。

横尾・双六池・雷鳥沢をB.C.として、それぞれ北穂・槍・劔などに登ることが多かったです。今夏、20数年振りに劔岳を登り、こんなに恐い山だったのか、と過去の記憶がすっかり消えていたのに驚きました。体力のあったあの頃は高校生と一緒にカニのヨコバイも楽々だったからかも知れません。

一昨年秋、共に安達太良山に登った人と下山後に深田百名山の話になり、帰宅して数えたら50に達していました。そんな折、手島さんからの年賀状に、彼の登った百名山の山名が出ていました。改めて彼に葉書を出したことがきっかけで豊中労山への入会を勧められました。

37歳からフルマラソンを始め、やがて六甲全縦タイムトライアルやチャレンジ登山マラソンの部にも出るようになって、今はやりのトレイルラン(そんな言葉、昔はなかった)にすっかり嵌ってしまいました。

しかし、50歳を過ぎてからは走力も衰えだし、フルのタイム低下と比例する如く、山を走って登ることが出来なくなって来ました。そろそろ見切りをつけて、山をゆっくり歩こうかと考え出していた矢先でもあります。走ることに山歩きと、どちらに重点を置こうか。気持ちは揺れています。走りに没頭していた頃でも、夏には信州の山に1回は行くことを続けていましたから、山歩きの歳月の方が遥かに長い訳です。とすれば答えは自ずと見えてくるのかも知れません。されど、走れるうちは70歳になっても走りたいと思っている現在です。

趣味と私

(C班)村田 将章

今まで私は、色々な趣味を20歳位からしてきました。

始めは、オートバイの免許を取得し、400CC のオートバイを買い色々なところに一人でツーリングに行きました。そのうちバイクショップに集まった気のあう仲間同士でツーリングクラブを作り、仲間同士で行動するようになりました。その後オフロードに興味を持ち、オフロードバイクで林道ツーリングに行くようになり、30歳位まで続けました。

30歳位から釣りをするようになりました。一通り色々な釣りを経験し、ルアー、船、投げ釣りに絞り、その3つに絞り現在も続けています。(最近はあまりしてませんが)

釣りは、自然相手のため、天候、場所、季節、時間、タックルなど色々自分なりの予想を建てなければ釣果には結びつかず、そのことが楽しくもありました。

その後、会社の先輩に誘われ、近くに山へハイキングに行かないかと誘われ、奈良県の二上山へ初めて行きました。思った以上に楽しくまた山頂からの景色も素晴らしかったため、今でもいい思い出として記憶に残っています。それがきっかけで数ヶ月に一度山へでかけるようになりました。

それから、もう少し本格的に山をやりたいと思い、山岳会に入ろうと決意し豊中労山に入会しました。入会してからはもっと山の知識や経験をつみたいと思い、豊中労山の初級登山学校に入り、以前からしたかったクライミングを体験し、C班の方に初級登山学校が終わればC班に入れてほしいと頼み込みC班に入れていただき、またクライミングの知識をもっと深めたいため、去年は府連・中級登山学校に入りぎりぎりですがなんとか卒業できました。

これで、どうにか車でいけば免許取得できました。車でも免許を取っても若葉マークをつけなければなりませんように、現在はクライミングの初心者の状態です。

今後はクライミングの技術、経験、知識をもっと広げてアルパインの本チャンでビューを簡単な所からでいいのでしたいと思っています。

私の後にもC班に数名入ってきまして、今年も府連中級登山学校でがんばっています。

その方たちともよくトレーニングに行くのですが、そのうちどこかにクライミングに行きたいと話したりもしています。

今後は、北アルプス、南アルプスのクラシックルートをできるだけ多く登攀できたらいいのみなあとと思っています。どうか皆さん今後もよろしくお願いします。

六十過ぎからの山歩き

(A班)森野 ますみ

山登りは面白い？楽しい？しんどくない？・・・知らない方は質問します。ところが豊中労山に入って感じた事とは・・・自然の四季を体験できること、山頂に立った達成感や感動！！・・・かな？ いいえ、私でも**仲間の皆さんと共に歩けた事、宿泊した事、鍋を作った事**。私本当に60歳過ぎまで山どころかアウトドア的なスポーツは全然やった事もなく、趣味と言えば本を読むこと、また手芸など平凡な主婦・・・

子供たちの独立も終わり、ある日から主人も送り、1人になってパート等で時間を過ごしていた。そんな豊中広報で、公開ハイキングの募集を見て初めて参加いたしました。京都大文字山に登り、大文字火床を下り、銀閣寺に降りると言うコースでした。その時哲学の道は桜が満開でしたよ！！

ハイキングと書いて募集しているのに、何で山などの登り道があるのか？ ハイキングとは本当にルンルンと歩き回る等と考えていた浅はかな私でありました。そんな公開ハイクに3～4回参加し、ある日年齢も考えず豊中労山に入会、そして即初級学校に入学です。それがまたいい方ばかりで、仲が良くて、皆さんが力と知恵で私を助けてくれます。今でも同級生は、本当に頼りになります。

東北はつい最近登った花の早池峰山、岩手山から南は高千穂(風雨でのぼれず)、韓国岳、歌に出てくる九重山、四国石鎚山、大山、また北アルプス、南アルプス、西穂等・・・、近くの山塊、熊野古道、現在進んでいる里山歩き、大変ながらも下山口に着き、振り返れば楽しいのです。

沢山の山行に参加させてもらいました。何回も弱音ををはきながらも、皆さんに励まされ、助けられて此処まで進んできました。その中で1番恐かった事、それは京都の廃村八町の山行で蛭(ヒル)に初めて食べ付かれた事！！思わず“誰か取って～”われを忘れて叫びました。そんなで今でもヒルのいる山には行きたくない、こわいです。

それぞれの山にはそれぞれの思い出が残っています。2500m近くのアルプスの稜線歩き、先ほどの霧雨も上がり、山々に沿ってガスが速やかに昇っています。天国に居るお父さんに、“私は今こんな近くを歩いていますよ”と心で少し呼びかけたり・・・。

こんな私ですが今までの皆様の力添えに感謝いたします。

そしてこれからもよろしく、お願いいたします。 合掌

私の一名山

(B班)酒井 桂子

私は四国という場所にとっても強い思い入れがあります。両親が四国の出身だったことや、学生時代を過ごした場所というのが大きな理由だと思います。そんな環境のなかで石鎚山という山の名前はよく耳にしました。場所も知りませんでしたが、神秘的な響きを持っており、そんな山もあるんだと印象に残りました。石鎚山が現実の山として私の前に現れたのは、母から若い頃に登ったという話を聞いた時です。急に山頂が身近になりました。行ってみたいくなり、軽い気持ちで友人を誘いました。

石鎚スカイラインを土小屋まで車で移動し、土小屋に1泊、土小屋と弥山の往復という予定を立てました。しかし運悪く石鎚山を目指す日は大雨の予報で、土小屋までは行ったものの中止となりました。仕方なく翌日は面河溪を散策することにし、朝、雲に隠れる石鎚山を眺めながらスカイラインを面河へと下りました。面河溪の遊歩道を奥へ進むにしたがって段々と天気が悪くなり、本格的に降りはじめた頃、テント場の先に石鎚山への登山道入口を見つけました。薄暗い木立の中をジグザグに消えていく登り坂で、今までの遊歩道とは雰囲気は違っていました。この細い道の先に石鎚山があり石鎚山を越えれば瀬戸内にでる。どこまでも続いていると考えると、とても魅力的な小道に映り登ってみたいと思いました。

面河で見た登山道が忘れられず、数年後に面河→弥山(泊)→西条を計画しました。九州在住の友人を誘い、集合は松山としました。ところが今晚出発という日に九州地方が豪雨に見舞われ、九州発着の交通機関がマヒし、計画は実現しませんでした。

さらに数年が過ぎ、豊中労山へ入会する機会に恵まれ、今年の9月に3度目の正直で石鎚山に登ることができました。コースは西之川→弥山→土小屋→瓶ヶ森→西之川で、しかもテント縦走です。深い山並み、岩場、木漏れ日やお花畑、笹原など色々な表情を楽しみました。念願の石鎚山は大変でもあり、よい経験にもなりました。

実は今年には石鎚 YEAR にするつもりでした。面河には行けていないし、二ノ森、堂ヶ森方面、筒上山も行きたい。瓶ヶ森は山頂を踏んでいないし、伊予富士、笹ヶ峰、西赤石、東赤石への縦走路も行ってみたい。毎月行くつもりが仕事の都合でその後一度もいけずにいます。何のための仕事かと思いつつも、仕事あつての山だと思いつつも日々です。このペースでは数年間は石鎚 YEAR となりそうです。初めの1回登るのに10年近くかかっているわけで、のんびりマイペースに続けていきたいと思っています。

豊中労山との出会い

(A班)井畑 秀敏

NHK のテレビで見た富士山からのご来光の素晴らしさに魅せられ、富士山に登る為の足腰を鍛えるべく始めた山歩きが私の山への一歩でした。年齢60を過ぎてからの山歩きですが、すっかりはまってしまいました。最初のうちは一人で金剛山や葛城山、箕面を歩いたり、阪急電車など主催のハイキングに参加していました。

豊中労山との出会いは、『千里タイムズ』で豊中労山の公開ハイクの記事を見たのがきっかけです。2006年9月の荒地山山行に参加したのが最初で、その時の班長が川津一二三さんだったように記憶しています。総勢50人を超える人数でしたが、5～6班位に班分けをし、救急係もおられ、かなり組織のしっかりした団体だと感じました。その後、愛宕山と箕面の公開ハイクに参加し、2007年3月に入会させて頂きました。

面接の時、初級登山学校のことを聞き早速入学しました。初級というので初心者ばかりだと思っていましたが、いざ始めてみると久保田さんや佐藤さんなどベテランばかりでびっくり。しかし、初心者にとってベテランはすごく頼りになる存在で、ちょっとした事でも随分参考になり色々な知識を得ることが出来ました。

初級では、歩き方に始まり、中学校以来のテント泊や重い荷物を担いでの縦走、岩登り、地図とコンパスの使い方など一通りの基礎を学ぶことが出来ました。講師やスタッフの人達に随分ご迷惑をおかけしたのではないかと思います。お陰様で短期間のうちに様々の経験をし、技術も向上？し、少し自信もつきました。

昨年暮れに中嶋会長から、会計をやってもらえないか、とのお話があり、経理は普段やっていることなので何ら抵抗もなく引き受けることにしました。未だ毎日勤務しているので十分に時間がとれず他の運営スタッフの方々にご迷惑をかけることがあるかと思いますが、少しでも会のお役に立てれば、という気持ちでお手伝いしたいと思います。今後ともよろしく願います。

[安全に山を楽しもう]

会長 中嶋 晴夫

第43回定期総会も終わり、新体制でこの一年を会員の皆さんと共に山行を楽しむことになりました。総会では山行への車両を利用するにあたって色々な意見が出ましたが、車を利用しての山行はくれぐれも交通ルールを遵守し正しい交通マナーを実践して「安全運転」に心掛けて下さい。

昨年度は会員各位のご尽力で、創立40周年の記念事業を無事終えることが出来ました。また、停滞ぎみであった各班の山行も会員各位の協力を頂いて、いろいろ新しい企画がなされ楽しい一年を過ごされたのではないかと考えています。

一方、昨年は山行中の事故が5件も発生しましたが、ほとんどが「うっかり・ぼんやり・勘違い」等のヒューマンエラーによるものです。十分な技術及び知識・経験等を持っておられる方ばかりです。

会員各自は「山では絶対に事故は起こさない」という決意を持って山行して下さい。また、リーダーやサブリーダーは「自分の安全は自分で守る、仲間の安全も自分が守る」という強い意志のもと、参加者に「ケガをしない・させない安全登山」を心掛けて下さい。

今年度は運営委員の大半が残留ということで、各班長を中心に前年以上に充実した活動を期待しています。また、初級登山学校の校長に広高氏(B班)、副校長に寺田氏(B班)が就任されました。今年は12名が入学されうち10名がハイキングセミナーからの転入組の新会員です。これから学科や実技等で正しい知識を身につけて、心身とも立派な「岳人」に育ってほしいものです。

今年一年、楽しい山行に向けて運営委員を中心に全員一丸となって諸活動に取り組んでいきたいと思っておりますので、会員各位のご協力を賜りますようお願い致します。

Let's go jogging.

(C 班)佐野 良一

新年度の始まり。私たちは新たな気持ちになる機会を年に2回(正月と4月)持っていますが、これは、1月にたてた“年頭の誓い”をいっつも守れない私のために、二度目のチャンスを与えてくれているのですね。

何をするにも体力が元手と考え始めて 20 年。自転車、ジョギング、水泳、登山と、いろいろやってみましたが、基本はジョギング。毎年 100Km/月と“年頭の誓い”をたてるのですが、山ほど付いてくる理由のために、4月にこれまた反省の繰り返し。今年も宮古島トライアスロンに参加します。99 年の初参加時は 11:52:24。07 年 08 年とベストタイムを更新しているのでトライアスロン暦 10 年と 50 歳の区切りとなる今年こそ、11:04:10 の記録を更新して夢の 10 時間台を目指したいと思っています。いちばん苦手なのがランニング。苦手克服のため、最近はウルトラマラソンにも参加しています。今の所、3回中2回完走。100Km で 12:46:13。まだまだ、完歩といった方がいいペースです。練習のため六甲山縦走もしています。こちらは、9 時間ぐらいです。

登山では、豊中労山の皆さんの御指導のおかげで冬山も行動範囲となり、06 年の松本単身赴任時に、赤岳(八ヶ岳)、遠見尾根(五竜岳)、美ヶ原、燕岳や常念岳のふもとを単独行する事ができました。冬山の静かさはサイコーです。誰にも会わず、ほぼ一日中、雪だけの中に居た経験は忘れられません。自然と一体になっているような感覚が生まれ、なんともいえない癒しの世界でした。

最近のマイブームはフリークライミングです。先輩方に指導いただきながら、取り組んでいます。高所感と恐怖感、自分をうまく制御してクリアできたときは、甘い甘いネクター(神々の飲み物)の様な達成感があります。まだまだ、バランスがとれず、しがみついた姿から脱せられないので、見られたものではありませんが、しばらくは、文字通り、岩に噛み付いてでも“しがみつき”ますので、C 班の方々、よろしく、お願い致します。

ところで、最初の話しに戻りますが、基本は体力という事で、山行の合間にジョギングしませんか。毎週日曜日 07:30(5月からは 07:00)、一庫ダムに集合してジョギングをしています。体力づくりは“長く続ける”事が大事。それぞれのペースで、おしゃべりしたり、湖面を眺めたり、四季折々の木々の色を愛でたり。私の様な怠け者のキーポイントは、苦しいとは思わない様にして楽しく走る事です。基礎体力ができると、山行に余裕ができ、楽しみ倍増ですよ。興味がある方は、Eメールください。

最後になりましたが、豊中労山の皆さんに感謝しています。皆さんのおかげで、いろいろ経験する事ができています。今年度も、よろしく、お願い致します。

今が 青 春

(A班) 碓 強

私の好きな「詩集・青春より」

* 青春とは人生の在る期間を言うのではなく、心の様相を言うのだ。優れた想像力、逞しき意思、炎ゆる情熱、怯懦きょうだを却ける勇猛心、安易を振り捨てる冒険心、こう言う様相を青春と言うのだ。人は信念と共に若く、疑惑と共に老ゆる。人は自信と共に若く、恐怖と共に老ゆる。希望ある限り若く、失望と共に老い朽ちる。

この詩は80歳のアメリカの詩人ウルマン氏の詩の抜粋である、私はウルマン氏より遥かに若いし、体力や気力の有る今を年相応な夢や冒険心を持ち青春を謳歌したいと思っている。

私がこれから楽しくやりたいと思っている事は数多くある、現実はなかなか容易でない事であるが、現在やりたい事を列記してみた。

- 其の一 伊勢迄(170km)歩講の初詣は未だ4回である、これからの体力、気力のあるかぎり続ける。
- 其の二 箕面川の清掃ハイク今年で6回目、これからも箕面川の清流を守りたい。
- 其の三 おおさか里山歩きの最初の計画はもう少し早く完了の予定が、少し欲張りすぎた計画になり、毎月1回で既に18回目になった、たが未だ半ばである、これからも皆さんと岬公園まで楽しく大阪の里山を完歩する。
- 其の四 6月の全国一斉登山を妙見山より箕面に場所の変更です、近場の国定公園の山や川の清掃を致します。皆さん是非ともご協力をお願いいたします。
- 其の五 マラソン2年間出場無し、今年はフルマラソンに変更し挑戦したい。
- 其の六 古道歩き、塩の道、さば街道、山陽道の古道を歩く。
- 其の七 梟の盆栽、パソコン、スケッチ等の趣味の継続をする等である。

豊中労山に入会し、はや5年を経過し入会と同時に初級登山学校に入り、多くの同期の方達との訓練や勉強の後に、現在も豊中労山で多くの方々との親交をありがたく思っています。これからも楽しく多くの方々と山行に行きたい、しかしながら、あれもこれも出来ないのが現状である、だけれど事故無く、健康に少しでも多くの事に挑戦をしてみたい、今年は何処まで出来るか楽しみなことです、これからも宜しくお願い致します。



入会	2004年
豊中初級	2004年卒
山経験	19年

エヴェレスト街道と人々

(A班)久保田 明

昨年の4月にエヴェレスト街道をトレッキングしました。ネパールの東北部に位置して、ソル・クーンブ地方と言い、ヒマラヤの最も高い峰々が連なっている。緯度は、奄美大島と同じ。小さな飛行機(15人程とその荷物で一杯)で出発地のルクラに着き往路8.5日復路3.5日のトレッキングである。最大の心配事は、高山病である。出発地が2860m、最高点が5483mのゴーキョピークになる。標高4000mを越えると誰でも何らかの高山病症状が出るそうだ。高山病にならないようにゆっくりゆっくり(ビスターリ)歩く。走る事やアルコールは禁物である。途中4300m地点で高地順応日を取り、300m降り、650m登りを往復する。一行は、同窓の友人3人と日本人ガイド、現地のコック(日本語が話せるクマル君)とポーター2人の8人である。

パサン・ラムさんの胸像門をくぐってトレッキング開始。この方は、女性のシェルパで最初にエベレスト登頂を果たし、下山時に遭難死した。道は街道と言われるように大きな振り分け荷物を乗せたヤクが十分通れる幅である。行き交う現地ガイドやポーター、トレッカー達に“ナマステ(こんにちは)”と声をかけると殆どが日本語で“こんにちは”と返してくれるので大喜び。中学生位の数人のお嬢さんが真っ赤なラリーグラス(国花)を髪に挿して談笑していたので人差し指を立ててねだるとニコニコしながら1本下さった。ダンネバード(ありがと)を繰り返し、愛用のタイリーハットに飾る。ネパール人になった気分なり。最初の昼食でバッチ(茶店)に入る。とても愛想の良いおばさんがジャガイモの粉を水に溶かし焼いてくれる。店前の記念写真にも快く入ってくれた。2日目にサガルマータ国立公園事務所で、入園手続きをする。ここからは、国立公園の中になる。サガルマータは、エベレストのネパール名で「世界の頂上」の意味。事務所内に月別の入園者数が表示されている。昨年同月は、3,439人だった。

3日目にエベレストが見える国立公園ビューポイントに上がる。持参の探鳥用スコープ45倍を三脚に乗せて眺める。この時前日アメ玉をあげた西洋人の女性と再会しお互いにビックリ。男性2人と女性3人のパーティーで代わる代わるスコープを使ってもらう。女性は皆日本製のデジカメをぶら下げており、自慢される。我々と一緒に記念写真を撮り、メールアドレスを教えてください。彼女は Loschinger さんである。帰国後その時の写真を編集してメールすると

“Thanks a lot for your Mail and the great pictures! ……” の返信が届いた。

彼女がCanonのEOS 30Dで写した小生のポートレートも添付されていた。Nicole さんもメールを下さった。皆さんは、ミュンヘン北西のコンスタンツに住んでいるようだ。

当日泊のサナサで、シェルパ族のRitaちゃん(10歳位)に“レサム ピリリ(シェルパの恋歌)”を所望するとニコニコしながら歌ってくれてパチリ。私も持参した歌詞を口ずさむ。

モンラでは、ほっぺの真っ赤な男の子が、友人から画用紙を貰って自分の手形を描いてくれた。署名がネパール字なので読めない。高地順応日のラファルマでは、笑顔がとても可愛い娘さんの洗濯姿を写させてもらう。行く先々で子供達を写す。必ずOKを貰ってから写す。インスタントカメラを持参しなかったので写真をあげられず済まない事をした。ラファルマは、4330mである。トレッキング開始日の二日前から「ダイヤモンド」を毎朝半錠飲んだせいか高山病の症状はない。食欲も十分あり快調なり。お目当てのゴーキョピーク5483mは、ロッジの前から700mの急登である。朝4時に出発し、灌木もない裸山を3時間20分かけてビスターリ、ビスターリと休み休みにジグザグに登った。酸素は、平地の半分しかない。頂上に着いて30分程は霞んでいてヤキモキしたが、遂に世界の最高峰8848mを目の当たりにする事が出来た。8000m級のルートエもヌプツェもマカルーも…。我がスコープを色んな国の人がのぞいて、喜びあった。(あとがき: 今回、我々4人でカトマンドゥ近くにあるマジュワ小学校75人全員へ上下ジャージと筆記具を持参して寄贈した。)



入会	2006年
豊中初級	2007年卒
山経験	10年